

31の絆の結晶

17歳新聞

2014
8月
[特別号]

編集新聞局員

責任者	編集長	宇佐美 舞
	顧問	教諭代表 橋本 淳
編集者	池田 くるみ	高橋 麻莉
	葛西 愛理	草 美緒
	大丸 音々	小倉 幸恵
	谷口 志帆	

7月10日～12日の3日間、第65回札幌大谷学園祭が開催されました。体育祭の1週間後というハードなスケジュールでしたが、31クラスによる完成度の高いHR発表がたくさん見られました。生徒会企画の「仮装コンテスト」も盛り上がり、一般公開の模擬店では『おもてなし』の気持ちで調理や接客をしました。今回の学園祭テーマは「Vinculum(ウィンクルム)」。古代ラテン語で絆・鎖という意味です。今年も人とのつながりを感じた学園祭。今回、新聞局の初の試みとして、「17歳新聞特別号」を発行します。最優秀賞に輝いたクラスの人たちなどを取材しました。

パフォーマンス甲子園



MIP賞 歌部門『ChocchoHoic』
学園祭恒例のステージ。今年も予選を通過したグループによる熱き戦いが繰り広げられ、3年5組砂田こゆきさんと遠藤美穂さんの『ChocchoHoic』が、最も印象的なパフォーマンスに与えられる「MIP賞」を受賞した。二人は学園祭限定でユニットを結成し、テイラー・スウィフトとYUIの曲を歌った。昨年の夏ごろから一緒に練習を重ねてきた。二人はともに「歌うことは、周りの人や自分たちも楽しくなる」という思いを持っている。「卒業後も一緒に歌い続けたい」と今後の目標を話してくれた。

ほかにも、生徒会が制作した映像やバンド、バラエティ、ダンス部門があり、出演者たちは会場を大いに盛り上げた。

音楽科1・2年合同合唱

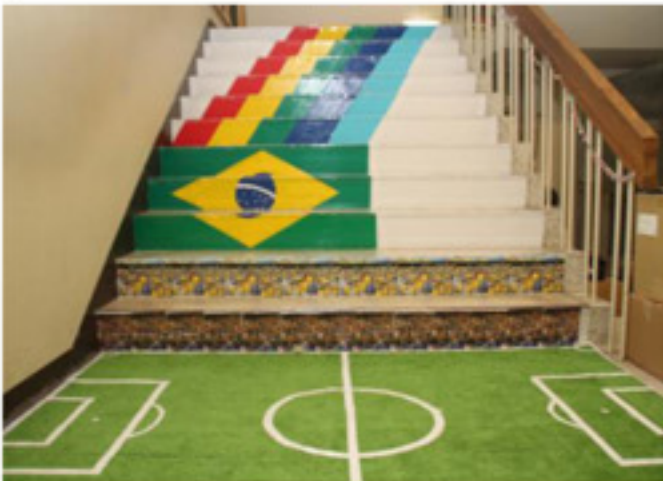
大ヒット映画「アナと雪の女王」の曲を合唱バージョンにして、メドレーで歌いました。工夫を凝らしたステージで、素敵な歌声とハーモニーが体育館に響き渡りました。



3年 模擬店

生徒による外模擬店を今年初めて行った。衛生面にも気を遣い、活気あふれる学園祭に一役買った。焼きそばを焼き続けた3組の生徒たちは「お客さんが喜んでくれて嬉しかった。大変だったけれど楽しかった」と充実した笑顔を見せた。夏らしいスイーツを提供する模擬店もあり、好評であった。売上は生徒会ボランティア活動などに活用される。

屋外4クラス 屋内5クラス



1年 階段アート

9クラス

最優秀賞 1年6組

ブラジルをイメージしたユニークなデザインで、来校者や生徒を笑顔にしていた。なかでも特徴的だったものは、審査員も高く評価していた、踊り場で表現した「人工芝のミニチュアサッカー場」。一番苦労したところはブラジルの国旗づくりで、上手くできたところは「全部」という。制作した生徒たちは「受賞したときはとても嬉しかった」と笑顔で話してくれた。思わず「ミニサッカーをしたくなる。そう思った人もいたでしょう。」

2年 舞台発表

5クラス

最優秀賞 2年10組 白雪姫

生徒会や部活動で忙しい人も多いため、全員が揃って練習することが難しかった。それでも本番は失敗なく発表できたという。王子役の豊田くんは「まさか、最優秀になるなんて。主演の桑原くんに感謝したい」と喜んでた。現代版白雪姫の「毒」は「スマホ」という創造力あるオリジナルの脚本。スクリーンを効果的に使用した演出もあり、クライジーでも素晴らしい舞台ではなかっただろうか。いろいろな意味で、いい意味で。



2年 教室発表

5クラス

最優秀賞 2年9組 遊美ーナ



美術科ワールドを体感できる展示であった。最初に目を引いたのは名画を再現した写真。まるでタイムスリップしたかのような、本物に勝るとも劣らぬ作品だ。生徒が各々の個性で描く「似顔絵」コーナーには、友人やカップル・親子の笑顔が並び、素敵な思い出になっていた。途中参戦した担任の藤田画伯の世界観にも人気が集まった。「アクセサリー作り」体験では、イヤホンジャックなどを製作。その場ですぐに喜んでくれる人もいて、作り方を教えた生徒の嬉しさも伝わってきた。オリジナルの「ぬりえ」コーナーにも人が集まり、「私たちの描いた作品に彩色してもらえて嬉しかった」と感謝している。参加者が楽しむだけでなく、クラスにとって貴重な機会になったようだ。懸命な宣伝や接客もあり、教室発表は大盛況であった。

美術科1・2年共同制作

美術科共同制作が7月10日の北海道新聞で紹介されました。今年のテーマは愛。作品は複数の人が寄り添う様子を抽象的に描いた画家・渡辺総一氏の油彩「平和への祈り」。たてが約6m、横が約7mの大きな絵画を制作しました。作者の渡辺さんから心が温まる嬉しいお言葉をいただきました。



1年 合唱発表

10クラス

最優秀賞 1年11組「夜明け」

候補に挙げた曲の中から全員で良いと思ったものを選んだ。最初の頃はやる気あまり出ず、全体のまとまりもなかったが、学園祭の1週間前からはクラス一丸となって練習に励んだ。特に、最後の練習は本番のときよりも良い出来だったのではないかと話もあるそうだ。歌うときは「息を合わせる」と「表情」に気をつけたという。若命さんは「最優秀賞に選ばれるなんて思っていなかった。すく驚いた」と受賞を喜んでた。

どのクラスも真剣な取り組みが伝わる発表であった。

プロフィール

小2からバレーボールを始め、2001年に高校生で全日本代表に選出。2004年にはアテネオリンピックに出場し、パワフルなスパイクと笑顔で人気を集めた。現役引退後はリポーターとして活躍しながら、全国でバレーボールを教えている。



6月19日、大塚製薬「ポカリスエット」が応援キャラバン2014で、元全日本代表選手の大山加奈さんが来校しました。この日は大山さんの誕生日、中高バレーボール部員はサプライズのケーキで祝福しました。大山さんからは技術だけではなく、大事な気持ちも学んでいました。終了後は新聞局のインタビューに応えてくださいました。

「仲間がいなかったら、苦しいことや辛いことを乗り越えることができなかった」と語る大山さんは、夢であったオリンピックに出場した経験から得たものがある。「夢を叶えられたのも今を楽しく過ごせているのも、全部仲間のおかげ。仲間は宝物」。スパイクを自分の強みにできた理由は「信頼のトス」が上がり、たくさんの支えに気づいたからという。現在はバレーボールの楽しさと仲間の大切さを、感謝の気持ちを持ちながら全国の子どもたちに伝えている。

「高校時代の仲間は特別な存在になる。楽しい思い出と大事な仲間をたくさん作ってほしい」とメッセージをくれた。気さくで優しく、魅力にあふれていた。

「仲間は宝物」。